

鉄道ピクトリアル

2007年1月号 Vol.57 No.1 通巻No.784

<特集> 急行列車

■表紙 因美線の急行「砂丘」……………眼目 佳秀

美作河井 1996-3

■グラフ

Last Express (1~5ページ)

……………池田嘉晃・石原裕紀・森 友紀・静 拓志・湯浅勝浩
岡本文彦・山中 茂・和田京太・眼目佳秀・佐々木修宏
昭和40~50年代 急行列車シーン(6~8ページ)

……………伊藤俊郎・三沢 孝・真鍋裕司・岡本文彦・伊藤 昭
浜村正弘・関根敏男

*

急行列車 思い出の場面……………構成:編集部… 33

気動車急行 全盛時代の記録……………伊藤 威信… 40

昭和30~40年代 国鉄急行券のバラエティ……………長谷川優… 42

*

京王電鉄ダイヤ改定……………山口 光… 46

JR東日本 D51 498 全般検査終了……………構成:編集部… 48

*

Pictorial Color Gallery 冬の序曲……………松本 誠… 97

JR西日本キヤ141系/JR東日本キヤE991形に燃料電池
搭載/桃花台新交通廃止/東京都5200形さよなら運転/
JR東海10月1日ダイヤ改正/JR西日本10月21日ダイヤ
改正/キハ58系国鉄色競演ほか

100~105

トピック・フォト(各地・関東・中部・関西)……………106

JR西日本 113系電車の動き……………佐々木晶朗…114

D51その一族—1115分の1の素顔(85)……………構成:編集部…118

■本文

今月の話題:急行列車……………編集部… 9

特急・急行・準急—国鉄を中心とした列車種別の社会史…山田 亮… 10

興味ある国鉄急行列車とその運転……………寺本 光照… 20

往年の急行券と営業制度……………長谷川優… 30

1960年代 国鉄急行列車の展開……………三宅 俊彦… 50

国鉄急行列車 編成記録ノート(63~85ページ)

中川浩一/和久田康雄/白井良和/沢柳健一

……………千代村資夫/三宅俊彦/長谷川明/山田 亮

真鍋裕司/岸上明彦/三木理史

*

鉄道の話題……………編集部… 49

世界遺産のダーズリン・ヒマラヤン鉄道探訪記……………白土 貞夫… 86

懐かしの沼尻軽便鉄道を訪ねて……………堤 一郎… 96

新年号スペシャル「鉄子の旅」幕間散歩(121~128ページ)

……………江上英樹・菊池直恵・神村正樹・宇都宮浄人

常磐新線からつくばエクスプレス(TX)竣工への道 Part 1

……………西野 保行…129

JR東日本における在来線保線機械の現状……………木伏富美雄…137

私の鉄道人生75年史—第1回 鉄道興味の芽生え—…里田 啓…142

書評(519)『都電が走った 昭和の東京』……………和久田康雄…146

10月のメモ帳……………147

鉄道ピクトリアル2006年主要総目次……………148

読者短信・情報ファイル……………150

写真をご投稿いただく時のお願ひ……………154

後部車から……………155

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru

今月の話題



カット:山本茂樹

急行列車

列車には速度、停車駅、サービスなどの違いによりさまざまな種別が設定されている。古くは最急行、近代においては特急、急行、準急、快速、普通、さらに大手民鉄などの都市鉄道を含めれば快速特急、区間急行、通勤急行……と種別名称を挙げればはきりのないほどである。こうした列車種別のうち、広義に捉えた優等列車の代表は急行(EXPRESS)であり、優等列車の総称として使用されることも多い。本号では往年の都市間輸送で一世を風靡した国鉄、JRの有料急行列車を、鉄道輸送の文化を視点に概観してみたい。

1949(昭和24)年、東海道線に戦後初の特急が復活して以降、151系の特急「こだま」に象徴されるように、特急は常に輸送の代表として崇められてきたが、そうした花形列車の影で、多くの庶民は料金低廉な急行・準急を利用していたのであって、ある意味では幹線輸送全盛期の実質的な立役者は急行列車であったといえよう。急行形車両も投入され、幹線からローカル線に至るまで全国津々浦々、国鉄線上に急行列車網が張りめぐらされていったのである。

しかし、社会状況、輸送を取り巻く状況の変化により、1970年代以降は特急列車が大衆化し、政策として急行の特急化、一方ローカル輸送においては急行の快速化(普通列車化)が進められ、次第に急行列車の数は減少していった。その方向は、JR発足以降も引き継がれ、今日すでに九州、四国からは姿を消し、本州と北海道で見られるものの、その数はわずかである。残存する急行列車の行く末に関わる情報は不明だが、鉄道旅行の中で耳にする「急行」という響きは特急にはない独特の旅情を有するものであり、何らかのかたちで継続してもらいたいものである。

TETSUDŌTOSHO KANKŌKAI
Oak Ochanomizu Bldg., Kanda Ogawa-
machi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan